

校長室から応援メッセージ(6)

令和4年11月4日(金)

「いつの間にか私は・・・」(『白いページの中に』より)

皆さん、こんにちは。45年前、高校3年生の秋、私は学校の授業そっちのけで独りよがりの勉強をして藻掻いていました。最後の模試で志望校〇〇大学合格可能性5%未満という判定でした。(5%未満とは随分丁寧に判定してくれたものです)。私は5%未満が4、99・・・%なら20回受ければ1回合格できる、それは今年かもしれない、と諦めることなく受験しました。でも願いは叶いませんでした。

予備校では、授業に合わせた勉強を大事にしました。偏差値とか合格可能性とか気にしても仕方ないことで、授業がわかるようになることだけ意識するようにしました。毎日予備校に通い、当たり前のように勉強していればいいのだと考え、そして実際それしかできませんでした。いろいろな数値を気にして、何かうまい方法はないかと藻掻くのは悪循環に陥ります。

勉強はどこかがつながると連鎖的に全体がつながります。その感動的な場面は自分でも気づくことなく通り過ぎます。こんなに頑張ってきたのに、今の自分は二か月前、三か月前の自分とあまり変わり映えしない、と感じても、だからといって二か月後、三か月後の自分のことは全くわかりません。二か月後、三か月後の入試本番までに何かが起きる、そう信じることです。

予備校時代、「白いページの中に」という歌が流行っていました。「いつの間にか私は」という出だしの部分を、ここだけ口ずさみながら(もちろん心の中で)ひたすら予備校に通い、「いつの間にか」大学生になり、「いつの間にか」高校の教員になり、そして「いつの間にか」定年退職を迎えていました。

「いつの間にか私は・・・」。この言葉は、人生を生きていく感覚をうまく表現していると私は思っています。目の前のことに没頭してこそ、「いつの間にか私は」の感覚が人生の推進力になります。皆さんには今は予備校生の姿勢を貫き通してほしいと思います。100%予備校生の姿勢に徹し続けてこそ、その積み重ねの果てに「いつの間にか」何かが実現しているのです。

人生には思い通りにいかないことの方が多いのならば、それは当初想像していたものとは違う形で実現することもあり得ます。しかし一生懸命努力した人には、喜ばしい何かが必ず実現しているのです。皆さんには将来、「いつの間にか」こんなに幸せになってしまっていた自分に気づいてほしいと思います。11月に入りました。これから受験当日まで無心で駆け抜けてください。私は皆さんの健闘を遥か校長室から静かに祈り続けています。